秋津野地域づくり協議会

和歌山県田辺市上秋津地区

農業法人(株)秋津野代表取締役　木村　則夫

和歌山県田辺市 和歌山県南部の経済の中心地

JR新大阪駅から特急で2時間30分（紀伊田辺駅）

中国吹田JCから2時間20分（南紀田辺IC）

上秋津は、田辺市の中心市街地から車で約15分中山間地

田辺市は世界遺産熊野古道の入り口の街

祝 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」追加登録

秋津野から車で

- ◇南紀白浜温泉まで20分
- ◇熊野本宮大社まで60分
- ◇新宮速玉大社まで90分
- ◇潮岬まで60分
- ◇那智・勝浦温泉まで90分
- ◇高野山まで150分

和歌山県田辺市上秋津地区

（3方を山に囲まれた中山間に属する地域）

- 農業は梅と柑橘栽培で周年収穫体制をとる農家が多い
- 昭和の時代から住民主体の地域づくりが続く地域
- 人口が増え、多様な考えが存在する農村の姿
- 地域づくりにコミュニティービジネスの手法取り入れた地域

平成8年には農林水産省主催の豊かな地域づくり表彰事業で天皇杯受賞

昭和60年以降

上秋津農業はリスク分散型の果樹栽培体系に

いくたびの経営危機から学んだ、柑橘の多種多品目の周年収穫体制

ひとつの品種品目では、気象・社会情勢・消費の変化に耐えられない。

ひとつの品種品目では労働力の分散が難しい。

行政や農協の営農指導機関からは多品目・多品種栽培は市場流通に不向きで栽培の効率が悪い

柑橘　温州ミカン・ポンカン・デコポン・三宝・ネーブル・清見・甘夏・カラ・セミノール・ニューサマーオレンジ・バレンシアオレンジ・はるみ、春峰、メーバー、他80品種。**落葉果樹**南高梅・古城梅・小梅・すもも・甘柿等が栽培されている。80品種以上

□直売所　＞　店頭での品揃えに大きく貢献できる。産直においては年中顧客との繋がりが保てる。
□グリーンツーリズム　＞収穫体験や作業体験での周年メニューにつながる。

上秋津は多様な考えの住民が暮らす農村に

1955年　540戸　2700人
2023年1283戸（約25%が農家）　3144人が暮らす地域

- 上秋津地域は中山間地の農村なのに人口が増えた地域（現在も増えている）
- 平成の初めには急激な人口増で新旧住民間にトラブルも見られ、地域づくり協議会『秋津野塾』を組織、地域づくりやコミュニティづくりを進めて来た
- 住民が株主の直売所や都市と農村の交流施設などを運営している

住民出資のコミュニティビジネス

住民主体の地域づくりが続いている

秋津野地域づくり協議会立ち上げの経緯

- 当初の地域づくりは地域内組織を網羅した協議会『秋津野塾』が主体
- 平成8年ごろからは、地域課題には経済をも考えた取組の必要性が出て来た。これまでの地域の活動主体の協議会組織では限界
- 平成11年以降、住民出資のコミュティビジネスを次々に立ち上げ、地域づくりに経済を絡ませながら、地域の活性化を目指している
- 令和元年には、廃園を復活させた園地で梅栽培を目指す法人も立ち上り、農機レンタル事業や廃園復活のための取組等を行っている。

●農村RMOは、これまでの地域づくりの経験を生かすことができる
●地域は活性化してきたが新たな課題も見え始めている
●地域づくりとコミュニティビジネスの両輪で進められる可能性もある
●地域づくりのための、窓口や事務局としての機能も持ち合わせている

秋津野地域づくり協議会

1999年

https://kiteraga.com/

CB

株式会社きてら

直売所事業

俺ん家ジュース事業

加工・農業体験事業

https://aigoukai.akizuno.net/

1957年

（公益）上秋津愛郷会

所有する財産（森林資源）から得られた収益で地域づくりを支援。発足当時は一般社団法人であった。

2007年

https://agarten.jp/

CB

株式会社秋津野

都市農村交流

農家レストラン、宿泊施設、オーナー制度、ICTグリーンオフィス、ワーホリ受け入れ窓口

スマート農業実証、農村RMOの研究

連携

https://shinfurusato.jp/

2014年

（一社）ふるさと未来への挑戦

地域づくり中間支援組織

太陽光発電、水力発電による売電

得られた収益でコミュニティビジネスを支援

2019年

https://akizuno.jp/

株式会社秋津野ゆい

CB

南高梅の生産販売

農機レンタル、スマート農業推進

廃園復活、他

https://akizuno.net/

1994年

秋津野塾

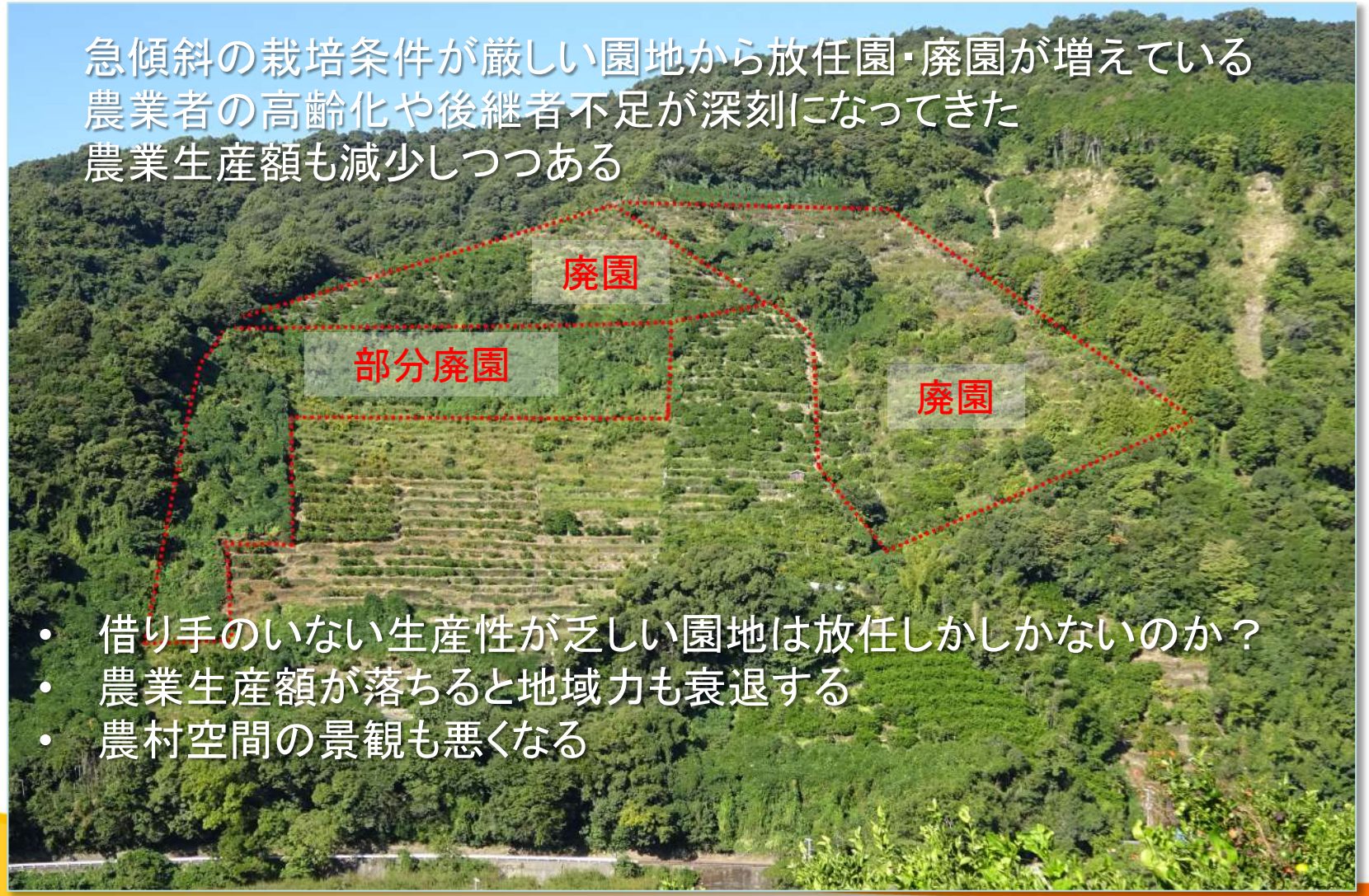
コミュニティづくり協議会

地域にある組織団体を網羅した地域づくり協議会で平成8年に天皇杯。

未登記

上秋津の樹園地でも廃園、放任園が

条件が良い園地だけでも、なんとか後継者や農業法人に残して行きたい



急傾斜の栽培条件が厳しい園地から放任園・廃園が増えている
農業者の高齢化や後継者不足が深刻になってきた
農業生産額も減少しつつある

- 借り手のいない生産性が乏しい園地は放任しかしかないのか？
- 農業生産額が落ちると地域力も衰退する
- 農村空間の景観も悪くなる

農業の課題解決のための組織を立ち上げ

農業を事業とする農業法人『株式会社秋津野ゆい』を組織（令和元年１１月）

◇法人組織（株式会社）での農業経営への挑戦と優良園地の保護や農業支援
◇農産物（特にウメ）の生産・加工・販売、農産物の貯蔵・運搬、農作業の受託、人材
◇派遣業や農業機械のレンタル、スマート農業に関する調査研究と実践。

まだまだ準備段階

作業の省力化
自走草刈り機、梅の枝などの樹木粉砕機などの導入や地域へのレンタル。スマート農機導入研究。

優良農地の借受け、請負
農家が農業を継続していても、収穫などで人手が足りない場合、作業を請け負う

耕作放棄地を梅畑へ再生49a（上秋津下佐向261－4）

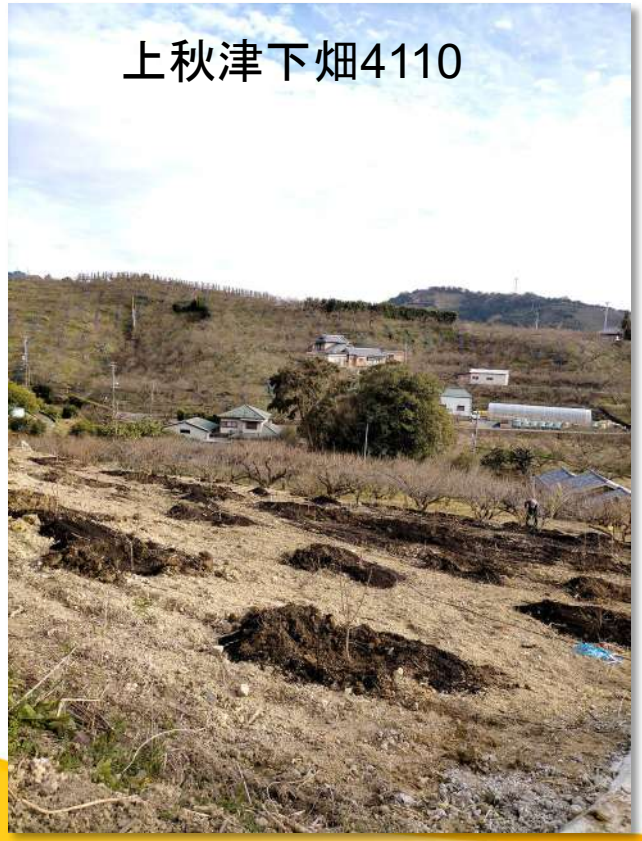
令和4年度和歌山県攻めの農業実践支援事業（令和4度RMO予算は不使用）
農業法人秋津野ゆいを中心にスマート農機でも使用可能なように廃園を復活
廃園を復活させ苗木を植えてもその後5年以上、栽培管理費の大きな支出が続く

令和5年度農村RMO事業

梅畑に再生した園地の栽培管理

上秋津下畑4110（33a)、上秋津下佐向261-4(49a)

園地再生後、何年にもわたる栽培管理や投下費用の負担も非常に大きい



令和5年度農村RMO事業

耕作放棄地を里山へ再生（上秋津字井田1152-2、1152-4）36a

放任園の急傾斜の段々畑を再生しても畑としての将来性は全く無い
そのまま放置すると景観が悪いばかりかイノシシなどの住処になる

秋津野の実情に合わした再生

都市農村交流が盛んな上秋津地域では、モミジや桜、他等の景観作物を植えることで、
ウォークイベントや低山登山などの催しで農村に人を呼び込める可能性が高まる

再び、経済的作物を植え
つけても管理ができない

農業機械レンタル事業で農家の負担を軽く

高価な農業機械を地域内でレンタルするため、
秋津野RMO参加組織と上秋津中山間委員会が連携。

連携

- 農業法人㈱秋津野ゆいは、所有の農機の提供と整備
- 上秋津中山間委員会（上秋津集落協定）が中山間地域等直接支払交付金制度の生産性向上加算交付金を活用
- 農業法人㈱秋津野がレンタル事業の窓口受付業務

泊食分離型農村ワーキングホリデー（援農）制度

上秋津地区では農村ワーキングホリデー（援農）は13年前から続けられていたが、ワーキングホリデー参加者の負担と農家側の負担が問題で利用者は伸びなかった

秋津野RMO参加組織と上秋津中山間委員会が連携。

- 上秋津中山間委員会（上秋津集落協定）が中山間地域等直接支払交付金制度の集落機能強化加算交付金を活用。
- 農業法人㈱秋津野が参加者と農家のマッチング作業と食事、宿泊場所の提供

※利用者　令和2年　60人　令和3年　159人　令和4年　149人

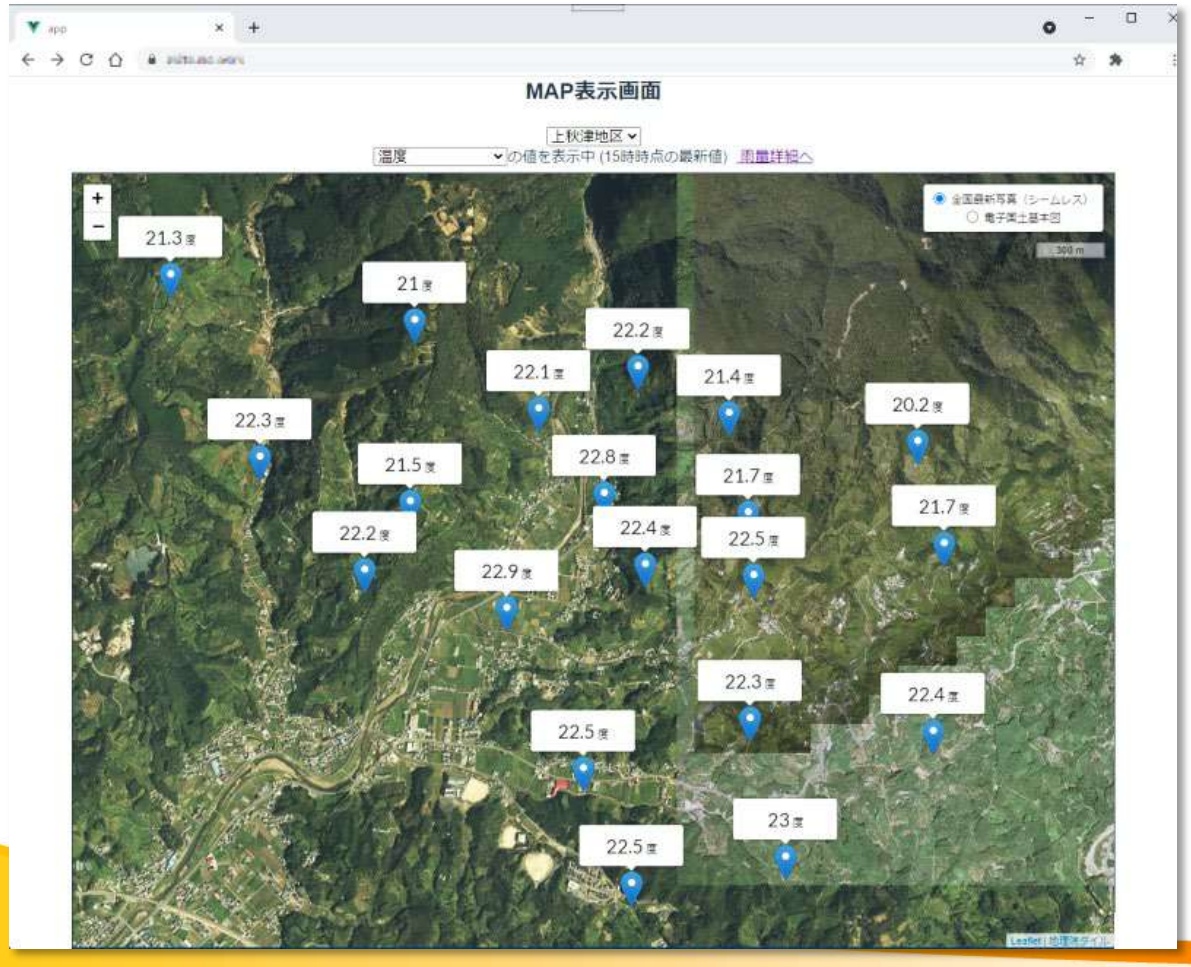
ルーラルウェザーネットワークの維持とデータ分析

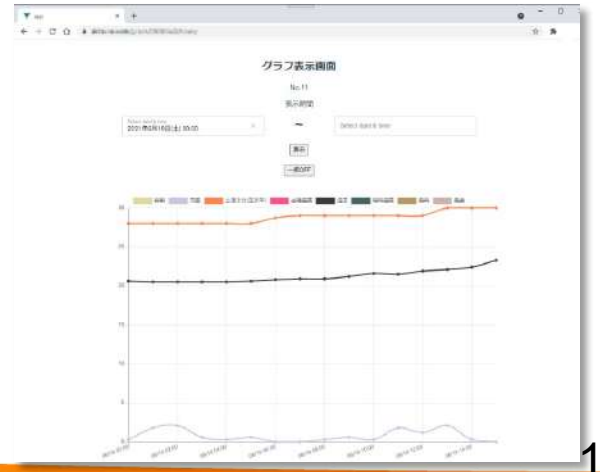
気象データを活用する農業へ

令和5年度　農村RMO事業での管理維持・データ分析

ルーラルウェザーネットワークの実証から実用へ

※令和2～3年　国のスマート農業実証プロジェクトに参加。ルーラルウェザーネットワークで適時防除や管理で作物の高品質化、防除薬剤削減を目指す。





これからも秋津野は農村RMOを目指していきたい

地域のすべてを活かす

今回の農村RMO事業中、全国のRMO先進地を学び、事業終了後も、山積する地域課題を早期に解決するため、計画から実行・実現が素早く行えるRMO組織体を目指していきたい。

秋津野地域づくり協議会

和歌山県田辺市上秋津地区

ご清聴ありがとうございました

農業法人（株）秋津野代表取締役　木村　則夫